

宮城県 仙台市立富沢小学校

基本データ

所在地	仙台市
児童生徒数	770人
教職員数	61人
蔵書数	14,132冊
年間貸出冊数	34,518冊

テーマ・活動のねらい等

【テーマ】環境整備

【活動のねらい】

- 現在の学校図書館の課題を解決し、利用者にとって使いやすく、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての役割を十分に発揮できる場所とすること。

取組・活動の概要

(1) 改装前の当校の学校図書館の問題点

- 地域の開発等により児童数の増加が著しく、蔵書を増やしていくことが必要となっていた。しかし児童数に対して学校図書館が手狭なため書架が不足。本がゆとりなく並べられていた。児童の発達の段階に応じた配架になっておらず、読みたい本を見つけるのが難しかった。
- もっと身近で活用しやすい図書館にするため、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての役割を充実させ、カウンターや書架の配置を見直し、館内を「エンターテイメントコーナー」と「レファレンスコーナー」に分けることにした。

エンターテイメントコーナー

- 読書センター的役割、くつろぐ空間
* 読みたい本が見つげられること

レファレンスコーナー

- 学習センター的役割、調べる・学ぶ空間
* 図書館で授業ができること
- 情報センター的役割、調べる・学ぶ空間
* 知りたい情報を見つけられること

(2) 改装の計画・準備

① 図書館の課題点の把握

- 学校図書館診断チェック表を利用して課題点を洗い出し、計画を立てた。
- 全職員、図書館ボランティアの協力を仰ぎ、司書教諭・図書事務員・図書部で分担を行った。

② 除籍と除架

- 児童が手に取らない本、情報の古い本、複本は、除籍、またはバックヤードに保存し、学級文庫として活用した。

③ 分類の見直し作業

- 絵本の分類の見直し、日本十進分類法に基づいた分類の見直し。

④ 配置換え計画の作成

- 実際の配置換えの作業に入る前に、「書架の幅・高さの計測」「現時点の分類と分量の把握」「バックヤード書架に保管する本の選別」等を実施。

(3) リニューアル作業

【第1次】

- 全職員、図書館ボランティアが担当した。
- 蔵書を分類番号の順番に別室へ運び出し、カウンター等の設備の移動と清掃をした。分類別蔵書の記録の作成、配架計画を決定し、各分類の起点に仮サインを貼ったあと、蔵書を書架に戻した。

【第2次】

- 図書事務員・図書館ボランティア・図書委員が担当した。
- 各種書架のサインの作成、図書館案内図（図書館マップ）の作成、利用案内オリエンテーションの作成、読書への意欲を高めるための展示や掲示の工夫と読み聞かせコーナーの設置を行った。



サインより右側の本を示す差し込みサイン



書架の見出し 書架上部のサイン



読み聞かせコーナーにもなるジョイントマットの設置

(5) オリエンテーションの実施

- リニューアル後、各学級で最初の授業利用時にオリエンテーションを実施した。

取組・活動の工夫や特徴

- リニューアル作業は、10月15日の秋休み明けから11月初旬までの約2週間図書館利用を停止し行った。(準備作業は除く)
- 学校支援地域本部「リンク」を通して、図書館ボランティアの協力を得ることができた。

- リニューアルの目的と概要を職員・児童に分かりやすく伝えるため PowerPoint で資料を作成し、リニューアル後の最初の授業利用時にオリエンテーションを行った。

取組・活動の成果や今後の展望

【成果】

- カウンターの位置を移動したことで、見通しがよくなり、授業での利用・指導がしやすくなった。資料も探しやすくなった。



カウンターから見た図書館全体の様子 大変見通しが良くなった

- くつろいだり、楽しく過ごしたりできるコーナーができたため、大型絵本や紙芝居などを広げ、ゆったりと過ごす児童が増えた。
- 図書館の仕組みや分類番号などに興味を持つ児童が増え、その良さを理解し、読んだ本を正しい場所に戻すことを意識するようになった。
- 今回のリニューアル作業を通して、蔵書量のバランスが分かり、これからそろえていくべき分類ジャンルなどがしっかりと把握できるようになった。

【今後の展望】

- 授業で活用する学級も増えてきた。学級数が多くてなかなか難しいが、授業での活用が進むように計画を立てていきたい。
- 情報センター的な役割にも重点を置き、より充実を図りながら児童の情報活用能力の育成を支えていく場所となるよう改善していきたい。
- 児童選書会(移動本屋さん)や図書まつりなどの今まで実施してきた活動にも力を入れ、より児童に親しまれ、活用される図書館を目指していきたい。